

平成 27 年度
豊田スタジアムを生かした
まちづくり特別委員会

調査研究結果中間報告書

平成 28 年 3 月
豊田市議会

【目 次】

1 設置の経過	1
2 調査研究事項	1
3 委員会等開催状況と内容	3
4 調査研究結果	4
5 中間報告における提言	8
6 むすびに～次年度の展開～	9
【添付資料】	11

平成28年 3月22日

豊田市議会議長

神 谷 和 利 様

豊田スタジアムを生かした
まちづくり特別委員会

委員長 都 築 繁 雄

豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会調査研究結果 ～平成27年度中間報告書～

本委員会は、平成27年5月15日の本会議において設置されて以来、委員会の設置目的を達成するため、調査研究を進めてきた。

これまでの経過と平成27年度の活動について、その結果を報告する。

記

1 設置の経過

(1) 平成27年3月2日、2019年（平成31年）に日本で開催されるラグビーワールドカップの開催自治体の一つに豊田市が決定された。

その決定を受け、市議会でも大会会場となる豊田スタジアムを生かしたまちづくりについて、調査研究を行うために本委員会が設置された。

(2) 平成27年5月15日の本会議において設置され、11名の委員が選出された。

板垣清志 岩田 淳 岡田耕一 加藤和男 窪谷文克 小島政直
桜井秀樹 塩谷雅樹 都築繁雄 松井正衛 三江弘海

(3) 同日開催された委員会において、委員長に都築繁雄、副委員長に桜井秀樹をそれぞれ互選した。

2 調査研究事項

(1) 設置目的

ラグビーワールドカップ2019の国内会場の一つである、豊田スタジアムを生かし、本市として大会成功、広域スポーツ振興、地域活性化に寄与し、国際都市としての更なる飛躍、発展等を目指し調査・研究を行う。

(2) テーマ・調査研究事項

1 国際都市 豊田市としての顔づくり

世界中、日本中から豊田スタジアムを訪れる観客の移動手段や、市内観光施設等の活用及び、駅周辺施設や歩道の緑陰・休憩施設など、駅周辺から豊田スタジアムへの動線に対する空間のあり方について調査研究を行う。

2 来訪者を迎えるためのおもてなし

市内に訪れる多くの人たちを地域の活性化に結び付けるため、市民意識の高揚をはかり、各種市民団体等と連携し、多くの市民を巻き込んだ来訪者へのおもてなしについて調査研究を行う。

(3) 調査期間

平成27年5月15日～平成28年3月18日



南から豊田スタジアム、矢作川、市街地を望む

【豊田スタジアム】 完成 2001年7月21日

メインスタンド 12,500席

サイドスタンド 14,500席

バックスタンド 18,000席

座席数 計 45,000席

(内 可動席 2,438 席はラグビー時には使用しない)

3 委員会等開催状況と内容

回	期　日	内　容
1	平成27年5月15日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・正副委員長の互選について
2	6月12日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究事項について ・年間活動スケジュールについて ・行政視察について
3	6月25日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・第8次豊田市総合計画策定に向けた市の課題等について ・豊田スタジアム見学について ・調査研究テーマについて
4	7月17日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度海外視察について ・全国主要スタジアムの概要について
5	8月18日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究テーマ・調査研究の進め方について ・視察先候補地について ・視察団からの報告について
一	9月10日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田商工会議所（商業連合協同組合、とよた下町おかげさん会）と意見交換
6	9月15日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田商工会議所との意見交換の内容について ・委員の派遣について ・視察団からの報告について
一	10月8日（木） ～10月14日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・委員5名による海外視察の実施（ラグビーワールドカップ2015イングランド大会を中心にまちづくり等を視察）
7	10月23日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・英国視察団からの報告と意見交換について ・今後の進め方について ・行政視察行程（案）について ・行政視察の実施
一	行政視察 11月17日（火） ～11月19日（木）	<p style="text-align: center;">奈良県奈良市 おもてなしのまちづくり条例及び 推進行動計画</p> <p style="text-align: center;">大分県大分市 一体的に進む中心市街地整備事業 について</p> <p style="text-align: center;">熊本県熊本市 観光振興の取組について</p>
8	11月24日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・行政視察の意見交換について ・英国視察団からの報告について
9	12月14日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究結果報告書（素案）について

10	12月22日（火）	・執行部との意見交換の取扱いについて ・平成28年度の海外視察について
11	平成28年1月21日（木）	・調査研究結果報告書（案）について
12	2月12日（金）	・調査研究結果報告書（案）について
13	3月18日（金）	・調査研究結果報告書（案）について ・委員の派遣について

4 調査研究結果

（1）豊田商工会議所（商業連合協同組合、とよた下町おかみさん会）との意見交換

「これからの中市街地のまちづくり」をテーマに、イベント開催時やこれからの中心市街地に必要なもの、豊田市を訪れる多くの観光客をお迎えする「おもてなし」について、実際に中心市街地で生活・営業をする方々の生の声を聞くことを目的に、豊田商工会議所（商業連合協同組合、とよた下町おかみさん会）の方々と意見交換を行った。その内容はハード面、ソフト面の多岐に渡り、今後の委員会の調査研究に活かしていきたい。

（意見交換会の内容については、資料として添付）

（2）国内視察調査

奈良県奈良市

おもてなしのまちづくり条例及び推進行動計画について

①事業概要

- おもてなしのまちづくり条例／平成21年4月施行
- おもてなしのまちづくり推進行動計画／「おもてなしのまちづくり」を市や市民、企業・団体などが協力して取組むための行動計画。
- もてなしのまちづくりを進めるため、広報及び啓発や活動の促進、学習の支援及び教育など、7つの分野について取り組んでいる。
- 現在、推進行動計画の最初の計画期間が過ぎ、見直し段階にある。今後はもてなす対象を明確化し、またもてなしに関わる各主体の役割関係をより明確にしていく。また、行動計画の実施主体として、関係団体により構成される「奈良市もてなしのまちづくり推進協議会」を中心に取組を進めていく。

②評価

- ・子どもたちへの世界遺産や、芸術・歴史・文化の教育が成功している点は評価できる。

- ・地域の伝統文化、遺産をきちっと教育し、後世につなげていく、それが将来のおもてなしにつながっていく。

③意見

- ・市として「おもてなし」に対して、どう取り組むのかを考えなければならない。
- ・本市の場合、ターゲットを絞るという視点から行くと、本市だけでなく、東海圏、愛知圏域といった近隣の市町の連携を図る必要がある。
- ・他市に誇れるもの、他市から見て豊田市の財産は何か、ということを考える必要がある。
- ・おもてなしという理念を掲げ、条例化し、行動計画を策定する中に多くの市民が参画できれば、市としてのおもてなしにつながっていくと思う。

大分県大分市

一体的に進む中心市街地整備事業について

①事業概要

- 主要事業
 - ・大分駅付近連続立体交差事業（県事業）約603億円
 - ・大分駅南土地区画整理事業（市事業）約685億円
 - ※関連事業ホルトホール大分整備事業（市事業）約98億円
 - ・関連街路整備事業（国・県・市事業）約652億円

●これらの事業により実現したまちづくりの効果

- ・都市基盤の整備による南北市街地の一体的な発展
- ・大分駅の高架や踏切除去による南北交通の円滑化
- ・区画整理による駅南側の低未利用地の解消
- ・街路整備による大分駅への交通アクセスの向上
- ・南北駅前広場、交通結節用地、高架下駐輪場整備による交通結節機能強化
- ・都心居住の増進

②評価

- ・駅前の景観を第一に考えていて、ロータリーの整備と待ちタクシーのシステム、郷土の偉人の像の整備、さらに駅北側ではまちの発展をオブジェとして設置、また、雨除け、日除けシェルターも地元産木材を使っている点は見習うべき。
- ・幅員100メートルのシンボルロードについても、防災に対応すると同時に、維持管理の点で、市民の皆さんに関わっている点が印象的であった。

- ・イベント広場を市民に有料で貸し出し、活性化につなげている点は豊田市でも取り組むことができると思う。

③意見

- ・ネットワーク化、景観等の視点から、市民の移動手段の確保ということで、今回の取組内容をうまく提言に取り入れていく必要がある。
- ・豊田市では、今、都心環境計画の策定にあたり、スピード感を持った取り組みに加え、市民の皆さんを巻き込み、その市民力を活かして、進めていくことが必要である。

熊本県熊本市

観光振興に対する取組について

①事業概要

- 平成22年3月、熊本市観光振興計画を策定。
- 基本目標「本市特有の歴史や文化を活かした観光の振興」
 - 基本方針
 - ・観光客やコンベンションの誘致
 - ・観光客受入態勢の充実
 - ・主要観光資源の魅力向上
 - ・その他：東アジア圏をターゲットにした海外誘客やMICE（注）誘致にも積極的に取り組んでいる。
- 今後は、九州新幹線の停車駅があるという地理的優位を活用し、ソフト面の充実やMICE誘致の更なる強化などに取り組むほか、ラグビーワールドカップ2019や2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、欧米・オセアニアへの海外展開にも取り組んでいく。

②評価

- ・観光に対する戦略をしっかりと掲げ、「選ばれる都市」を柱に取り組んでいる点が評価できる。
- ・ターゲットを絞り込んで、それらにたいする取組みにこだわっていくという点は評価でき、本市でも取組むことができると感じた。
- ・観光客誘致だけでなく、MICE（注1）についても取り組んでおり、それも別々に動いていたのを一緒に取組むように変更した点などは、評価できる。

③意見

- ・組織について、観光都市として取り組んでいくという市の意識を感じる組織体系だと思った。本市でも、ラグビーワールドカップ2019や東京オリンピック・パラリンピックなどを見据えて、観光など、施策の目的に特化した体制を考えるべきだと感じた。
- ・豊田市発で開催自治体の連携協議会のようなものを立ち上げることができないか。そうすることにより、自治体としても、議会としても大会を成功させることにつながると思う。
- ・行政と観光協会がしっかりと連携しなければならないと感じた。また、そういった組織が必要である。
- ・今後は、海外等も含めた情報発信に力を入れていかなければならない。

注1：MICEとは、企業等の会議(Meeting)、報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントのこと。

(3) 海外視察調査

今年度、委員5名がラグビーワールドカップ2015の開催されたイングランドを視察した。現地では、まちづくりの視点から公共交通やスタジアム周辺の商店街、側面的に大会運営の調査研究を行った。

まず、訪れた試合会場周辺では、多くのボランティアが様々な形で運営に携わっていた点が印象的であった。

特にスタジアムに併設される「ファンゾーン」（注2）では、その地域の特徴を生かした内容が準備されており、多くの人が思い思いに楽しんでいた。このファンゾーンでの自治体独自の取組などは、本市での試合開催時においても非常に重要なと考える。

（海外視察団報告書については、資料として添付）

注2：ファンゾーンとは、試合開催会場付近に設けられた、パブリックビューイングや飲食ブース、イベントなどを入場無料で楽しむことができるスペース。

5 中間報告における提言

①市として、大会成功に向けて取組むための府内推進体制の更なる強化

ラグビーワールドカップ2015イングランド大会における日本代表の活躍により、今、ラグビーは非常に注目を集め、盛り上がりを見せており。この盛り上がりをブームではなく、効果的に施策に結び付けるため、市として大会成功に向けて、早期に府内体制を整え、強化することが必要である。

国内視察で訪れた熊本市のように、市として観光に積極的に取り組む姿勢を打ち出し、その目的に特化した組織体制を敷くことは、目的の達成の他にも、市民意識の高揚にもつながると考えられる。

また、大分市では、国・県・市の各事業が一体的に進む中心市街地整備事業について現地見学も交え、説明を受けることができた。事業主体が異なる中で、スピード感と統一感を持って事業を進めている点は非常に評価できる。本市においても、現在、取り組んでいる「都心環境計画」について、スピード感を持った取組を進めることができる体制が必要である。

②日本全国での開催自治体12都市の連携強化

ラグビーワールドカップ2019日本大会は、全国12都市で開催される。自治体規模や国際大会の経験などを比べても、自治体間の差は様々である。

また、今年度の海外視察の際に、現地で熊谷市議会との意見交換会を行い、様々な情報収集を行うことができた。やはり、他都市との情報交換は効果的と考える。

そのため、日本全体で大会成功を収めるため、開催自治体間での情報連携を密にし、開催自治体周辺地域までも含めて地域の活性化につながるための取組みを進める必要がある。

③ファンゾーンに対する効果的な取組

今年度、ラグビーワールドカップ2015イングランド大会を視察し、大会が行われているスタジアムに隣接するファンゾーンの重要性を認識した。現地では入場前や、試合中に会場に入れないと見守る人たちがパブリックビューイングで楽しんでいたほか、飲食・物販コーナーが設置され、多くの人で賑わっていた。

このゾーンは、開催自治体の裁量による運営が可能になる点が多くなると思われるため、市として効果的なゾーンとするには、どういった方針で取り組むのか考えなければならない。

6 むすびに～次年度の展開～

2019年のラグビーワールドカップや、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2027年のリニア開通など、ビッグイベント・プロジェクトが動き出している。

特にラグビーワールドカップにおいて、豊田スタジアムが会場に決定されており、本市は開催都市としての役割をしっかりと認識し、大会の成功に向け、しっかりと準備をしなければならない。

そのような中、今特別委員会では、ソフト面・ハード面の2つの調査研究テーマを設定し、この一年調査研究を行ってきた。

調査研究を進める中で、平成27年10月にはラグビーワールドカップの開かれたイングランドを視察した。現地ではトゥイッケナムやグロスターのスタジアムに併設されるファンゾーンを視察しその重要性を、また市民ボランティアの活躍や、街の盛り上がり、交通環境、商店街の様子などを、実際に自分の肌で感じ、目で見ることができ、非常に有意義な視察であった。

さらに、現地では埼玉県熊谷市議会の皆さんと意見交換をする機会があり、ラグビーの街ともいえる熊谷市の様子などを聞くことができたことも有意義な視察となった理由の一つである。ぜひ、来年度は今年度とは違った視点で海外視察を行い、この特別委員会の調査研究、そして議会から市政への提言に活かしていきたい。

ラグビーワールドカップ イングランド大会の日本代表チームの活躍もあり、日本にはラグビーブームが巻き起こっている。このラグビーの盛り上がりを、ブームに終わらせず、いい形で2019年へつなげ、大会成功へ結びつくことを願う。そのためには、今後より一層、市民意識の醸成を図って行く事はもとより、豊田スタジアムで開催されるラグビー・サッカーの試合ごとに、市としての目標を持って取り組んでほしい。

現在、本市は第8次豊田市総合計画や、豊田市都心環境計画、駅前通り市街地再開発事業など、豊田市の顔、核となる事業、計画に取組んでいる。ラグビーワールドカップの開催される2019年、さらには豊田市の将来を見据え、市民、執行部、議会が一体となって、今回の提言等も含め、これからまちづくりに取組んでいく必要がある。そのため、来年度も引き続き、国内・海外先進地視察なども実施しながら、さまざまな視点で調査研究を行っていきたい。

【添付資料】

①豊田商工会議所との意見交換会の内容

②海外視察団報告書

①豊田商工会議所との意見交換会の内容

豊田商工会議所との意見交換会				
日時	平成27年9月10日（木）午後2時30分～3時30分			
場所	豊田商工会議所3階会議室			
出席者	豊田市商業連合協同組合：吉村代表理事 成田副理事長 とよた下町おかみさん会：杉谷監事 商工会議所：鈴木部長			
特別 委員会	都築繁雄	岡田耕一	加藤和男	塙谷雅樹
	桜井秀樹	三江弘海	板垣清志	岩田 淳
	松井正衛	小島政直	窪谷文克	
主な意見	ハード面			
	①まちなかインフォメーションの暫定オープン 将来的には駅東広場完成時に実施することだが、RWC時に暫定・臨時対応等の検討を願いたい。			
	②コインロッカーの整備 現在、お客様はキャリーバッグなどを持ったまま、スタジアムへ行っている状態。今設置されているものは古く、小さいものが多い。			
	③公衆無線LANの整備 通信会社によるものはあるが、駅周辺、全体を包括するもの。特に情報を得るのはインターネットが多い。			
	④交通案内の多国籍表示化 現在、英語対応となっているが、それ以外にも対応する必要がある。			
	⑤両替可能店の増強（銀行以外） 特に土・日曜日には両替可能店がない。街中の小さな店舗だとクレジットカードも対応していない。ホテル提携なども含めて、対応可能店など、何らかの対応が必要。			
	⑥宿泊施設の増強 せっかくの試合があっても豊田市内に泊まってくれなければ経済循環とならない。簡易的なものでもいいので、ぜひ宿泊をして、市内にとどまつてもらうような方策が必要。			
	⑦バリアフリー対策 再開発時期が異なるため、エリアによって整備進捗がバラバラである。			
	⑧着替えスペース、授乳スペースの確保 一緒に盛り上がるためにユニフォームへ着替える場所やお子さん連れのお母さんは授乳スペースが必要という声がある。			

①豊田商工会議所との意見交換会の内容

ソフト面

①試合開始日に商店街の営業

現在、土日休みのお店も多い。ぜひ試合開催時には営業するように要請。

②多国籍言語対応（指さし会話集など）

他市でも事例があると聞くが、簡単なモノでいい。

③多国籍言語対応（通訳ボランティアスタッフの確保・養成）

TIAなどと連携し、ボランティアスタッフの確保、養成。

④ハラル等宗教的食事対応店の拡大

これからの中長期社会では気を付けていかないといけない。今後も研究が必要。

⑤豊田市・日本のお土産販売店の整備

お客様からよく土産店、土産品がないかと聞かれる。土産開発や空き店舗利用なども検討。

⑥シャトルバス発着場所の再考

駅から少し離れた所から発着。駅前をお客さんが通ることでビジネスチャンスとなる。

⑦多国籍対応のまちなかマップ

RWCを待たずに用意したい。

⑧パブリックビューイングの開催検討

チケット購入ができなかった、スタジアムへ行けない人もいる。さらに街全体で盛り上がるためにも必要。シネコンとの連携なども視野に入れて検討。

⑨免税対応店

海外需要を高める意味でも対応を進めてほしい。

⑩開催に向けての市民意識向上策

そもそも意識・関心がない。電光掲示板など何らかの方策が必要。

⑪駐車場確保

ラグビーのお客さんだけで既存駐車場が埋まってしまうは意味がない。

巨大駐車場の用意等検討が必要。

⑫同時開催で街なかイベントの実施

街として盛り上がるためにも実施したい。その中で、外国客・遠方から来た人に「おもてなし」できる。

その他

①ムクドリ対策 → 悪臭、美観の問題

②駅西デッキ下の治安対策

③駅西ペデストリアンデッキ雨漏り対策 → 将来的に建て替え等も視野に何らかの対応が必要。

平成 27 年度

豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会

海外視察団報告書

- 日 程 平成 27 年 10 月 8 日(木)～14 日(水)
- 調査先 イギリス

目 次

団員名簿	1
はじめに	2
行程表	3~4
現地地図	5
事前事後協議状況	6
視察報告	
1 レスター	7~14
2 ジャパンパビリオン	15
3 トウイッケナム	16~17
4 熊谷市議会との意見交換会	18
5 グロスター	19~20
6 アーネスト&ヤング社 W杯経済波及効果セミナー	21~23
7 エミレーツスタジアム	24~25
おわりに	26

豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会

海外視察団 団員名簿



团长

都築 繁雄 (つづき しげお)



团员

岡田 耕一 (おかだ こういち)



团员

三江 弘海 (みえ ひろみ)



幹事

窟谷 文克 (くぼや ふみかつ)



团员

塩谷 雅樹 (しおや まさき)

随行職員

川北 尚志 (かわきた ひさし)

はじめに

平成31年9月から11月の約6週間をかけて繰り広げられる「ラグビーワールドカップ2019」は、世界の国と地域から20チームが参加し、日本国内の12都市で、延べ48試合が行われる、世界三大スポーツイベントの一つであります。本市もその開催都市の一つとして、平成27年3月2日に選定されました。

そこで、議会としましても、平成27年5月の臨時会におきまして「豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会」を設置しました。豊田スタジアムは、本市のシンボル的施設であり、約45,000人収容できる、国内屈指のサッカー・ラグビーの専用球技場であります。この豊田スタジアムで開催される「ラグビーワールドカップ2019」の成功に向けて貢献をするとともに、本市のスポーツ振興はもとより、地域の活性化や国際都市としてのさらなる飛躍ができる絶好の機会として捉え、特別委員会において調査研究をしているところであります。

こうした折、平成27年9月18日より開催された「ラグビーワールドカップ2015」を現地に出向いて調査研究し、本市の参考にすべく特別委員会11名のうち5名を「ラグビーワールドカップ2015」に派遣することを特別委員会で決定し、視察団を編成して、平成27年10月8日から14日までの5泊7日の日程で視察を実施しました。

現地での滞在は、5日間あまりでしたが、開催都市の一つであるレスター市からは、開催に向けての自治体としての各分野の取組等、アーンスト・アンド・ヤング社からは、今大会の経済効果等について説明を受け、また実際に大会が行われるスタジアム周辺やファンゾーンをこの目で視察してまいりました。実り多い収穫のあった視察だと自負しております。詳細につきましては本編をご一読ください。

報告書の作成に際し、この視察にご協力を頂きました関係者の皆様に感謝を申し上げます。

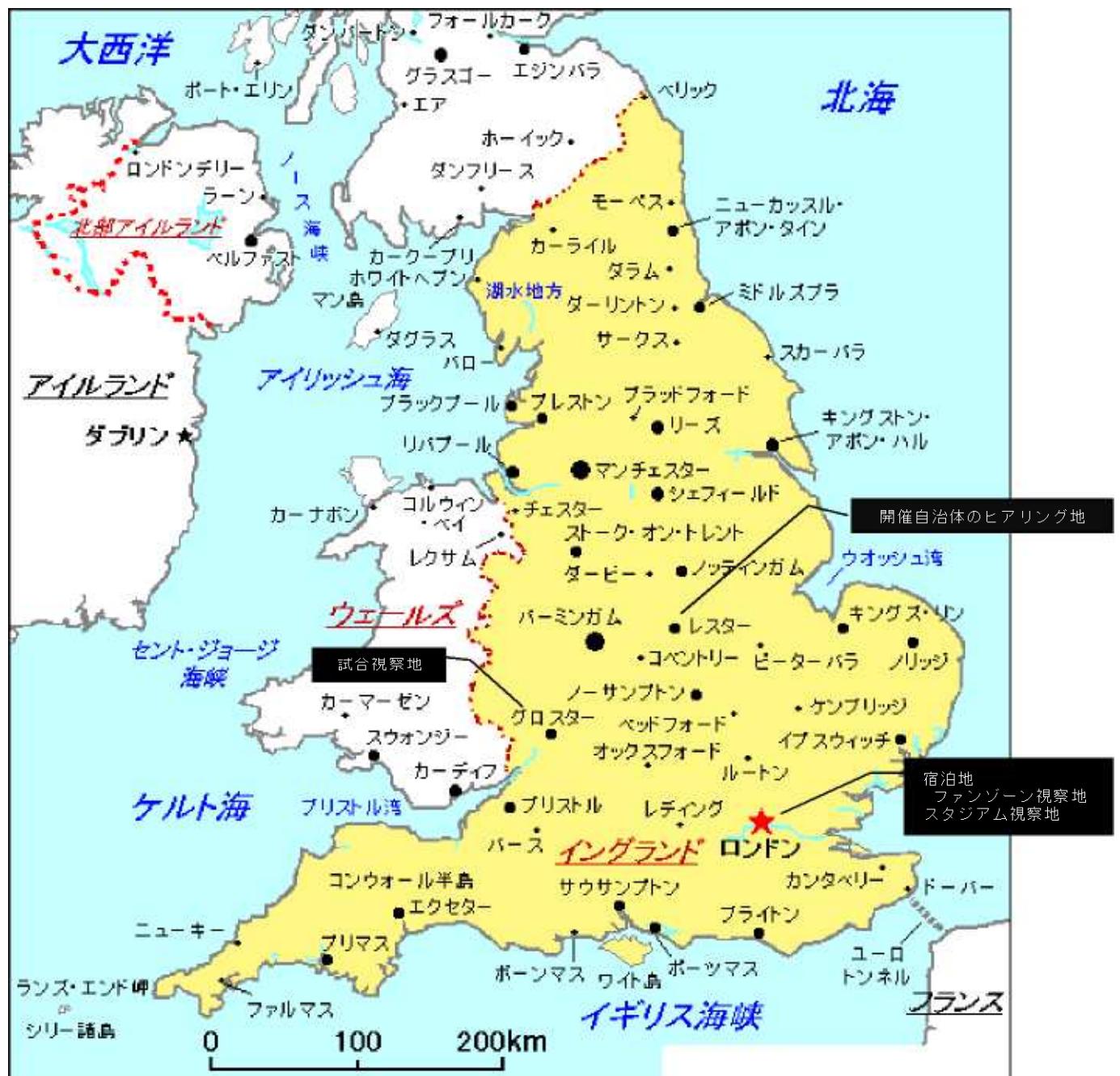
豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会 海外視察団
団長 都築 繁雄

行程表

	月／日（曜）	現地時間	地名・施設名	交通機関	視察内容
1	10月8日 （木）	9:25 11:25 13:00 17:25	中部国際空港 発 ソウル仁川空港 着 ソウル仁川空港 発 ロンドン 着	KE752 KE907	空路、ロンドンへ出発 ソウルにて乗継 ロンドン到着後、ホテルへ 【ロンドン 泊】
2	10月9日 （金）	6:45 9:45～ 12:45 14:15～ 14:35 14:55～ 15:05 15:50～ 16:25 18:30	ホテル 発 レスター市フットボーラークラブ レスター・シティ・スタジアム グラマースクール ラグビー校 ホテル 着	専用車 専用車 専用車 専用車	◆開催自治体（レスター市）とヒアリング ・キャンプ地としてのソフト・ハード面 ・出場国と市民の関わり ・交通対策 ・ボランティア ・開催地のハード整備 ・キングスホールム・スタジアム ◆レスター・シティ・スタジアム周辺 ・ファンゾーン（ビクトリアパーク） ◆キャンプ地グラマースクール周辺 ◆ラグビー発祥の地 ・ピッチ ・校内ショップ ・ウィリアム・ウェップ・エリス像
3	10月10日 （土）	9:00 9:50～ 12:50 15:10～ 17:45 18:05	ホテル 発 ロンドン市内 ホテル着	地下鉄 バス 地下鉄	◆ロンドン市内 ・ジャパンパビリオン 他 ◆トゥイッケナム・スタジアム周辺 ・ファンゾーン 他
4	10月11日 （日）	7:30～ 8:15 9:30 10:15～ 11:30	ホテル内 ホテル発 ロンドン市内	地下鉄	◆熊谷市議会視察団との意見交換会 ◆ロンドン市内

		13:35 16:20	ホテル発 グロスター着	専用車	◆グロスター市内 ・ファンゾーン ・グロスター駅 ◆キングスホールム・スタジアム ・日本 VS アメリカ戦 ・スタジアム周辺飲食店等察 ・周辺商店街 ・ファンゾーン
		00:20	ホテル着		
5	10月 12日 (月)	10:30 11:15～ 12:25 15:00 15:30～ 17:45 18:45～ 23:00 23:40	ホテル発 ロンドン市内 ホテル発 ロンドン市内 ホテル着	地下鉄 タクシー 専用車	◆ロンドン市内 ・周辺商店街 ◆アーンスト・アンド・ヤング社 ・W杯経済効果セミナー ◆ロンドン市内
6	10月 13日 (火)	10:45 11:15～ 15:30 19:35	ホテル発 ロンドン市内 ロンドン発	専用車 KE908	◆ロンドン市内 ・エミレーツ・スタジアム 空路、中部国際空港へ出発 【機中泊】
7	10月 14日 (水)	14:25 19:05 20:55	ソウル仁川空港 着 ソウル仁川空港 発 中部国際空港 着	KE751	ソウルにて乗継 中部国際空港到着後、入国手続き

現地地図



事前事後協議状況

目次	月／日（曜）	協議事項	決定事項
1	7月17日（金）	視察団の役職 視察団の名称 視察日程 視察内容	団長：都築議員 幹事：窪谷議員 スタジアムを生かしたまちづくり視察団 10月8日（木）～14日（水）JTB提案が基本 開催都市の実務対応等のヒアリング 現地での試合視察 スタジアム周辺の来訪者対応等の視察 現地経済波及効果のセミナー 等
2	8月 7日（金）	JTBより説明・協議	視察行程の詳細
3	8月26日（水）	JTBより説明・協議 担当割振り（案） 市長への出発報告	視察行程の詳細 報告書等の担当割振りの決定 9月30日（水）本会議終了後に市長室にて
4	9月 2日（水）	JTBより説明・協議	視察行程の詳細
5	9月11日（金）	JTBより説明・協議	視察行程の詳細 開催自治体への質問項目 熊谷市議会の意見交換会
6	9月16日（水）	JTBより説明・協議	視察行程の詳細 開催自治体への質問項目 熊谷市議会の意見交換会
7	9月29日（火）	JTBより説明・協議	集合名刺
8	9月30日（水）	市長への出発報告	
9	10月23日（金）	報告書	報告書構成（案）
10	1月21日（木）	報告書	報告書の担当
11	2月12日（金）	報告書	報告書（案）

1 レスター

1 開催都市のヒアリング

(1) レスターの都市概要

市域面積は $73,32\text{ km}^2$ 、2007年現在で人口は約292,600人であり、イングランドの中央に位置する200年以上にわたる栄えある歴史を持つ古都である。今日では古代と近代が融合しており、鉄道のアクセスも良くロンドン・セントパンクラス駅からシェフィールドやノッティンガムに向かう主要路線上にある。

スポーツに関する素晴らしい伝統があり、プロチームを持つスポーツはサッカーは、日本代表の岡崎選手が所属するレスター・シティFC、バスケットボールは、レスター・レイダースなどがある。

レスターは、レスター・タイガースの本拠地でもあり、ラグビーにおいても熱狂的な街である。強固なスポーツの伝統とともに、英国で最も有名なラグビーチラブの一つである。クラブの輝かしい歴史は1880年までさかのぼり、今日は成功し、市民に支持されたイングランドのラグビーチラブの一つに位置付けられている。

また、知的障がい者のオリンピックのスペシャル・オリンピックを1989年と2009年の2度開催した英国内唯一の都市でもある。



説明を受ける視察団



都筑団長よりお土産を手渡す

(2) 招致活動のプロセス

- ①FIFA2018などの大規模イベントの招致
- ②最近の「王リチャード3世埋葬」などの大規模イベントの実施
- ③大規模イベントを招致しないことによる不利益の認識
- ④市が完成させた招致申請書に記載した多数のトピック等々の実績。

(3) レスターにもたらすメリット

「アーンスト・アンド・ヤング社のラグビーワールドカップ2015における経済効果」によると、レスターの利益は5,900万ポンド（165円換算で、約97億3,500万円）と試算された。

また、経済利益は大会期間中の短期的なものだが、以下の事項と同時に後世に残るレガシー（遺産）を残すという広義の利益をもたらす。

- ・観光客の目的地としての認知度向上
- ・ビジネスにおけるレガシー
- ・イベント関連の雇用創出
- ・スポーツへの参画の増加
- ・施設整備への投資
- ・スタジアムの改良
- ・来訪者による支出
- ・「満足感」の要素

(4) 会場 — レスター・シティ・スタジアム（キング・パワー・スタジアム）

- ①レスター市役所はすでにレスター・シティFCと強固な関係を築いている。
- ②レスター・シティFCは、主要なイベントの受入に長い歴史を持ち、ラグビーゲームの開催にあたってのインフラを備えている。
- ③レスター・シティFC自らがイングランドラグビー2015（ER2015、RWC2015の運営母体。日本でいう組織委員会に相当）と独自に会場使用契約を取り付けているが、既存の強固な関係のさらなる強化のため、レスター・シティFCは、レスターのプログラム理事会の会合に全て参画している。
- ④大会期間中、会場はレスター・シティ・スタジアムと呼称される（元来は「キング・パワー・スタジアム」だが、商業権保護の観点からオーナー企業名を使用しない名称に一時的に変更した）。
- ⑤収容人員は約32,000人。



説明会場に設置されているバーカウンター



ポスターが貼られたトイレ



スタジアムの入口



ロッカールーム



スタジアム内の展示コーナー



スタジアム内の案内



スタジアム内の全景

(5) ボランティア

- ①ボランティアの役割は、挨拶・案内、活動支援の設置・撤去等も担っていた。
- ②市役所が独自に選定した約40人のボランティアがファンゾーンの開催期間である10日間の運営を支援している。
- ③ER 2015が選定したボランティア300人が、スタジアム内・周辺、鉄道駅や市の各通りでファンを支援している。
- ④ファンゾーンのボランティアの性別は男女半数で、大半が白人の英国人だが、他の民族的背景を持つ人、例えばインド、中国、ウェールズ、アイルランド、アフリカなどもいた。
- ⑤ボランティアの話せる言語はスペイン語、フランス語、中国語、グジャラート語（インド西部）、ヒンディー語（インド中北部）などで、日本語が話せるボランティアも2名いる。
- ⑦ボランティアの年齢は、18歳から74歳まで多岐にわたっている。

(6) ファンゾーン

- ①ファンゾーンは、鉄道駅から南東約600mに位置するヴィクトリア・パークに設置。
- ②10月3日～11日に開場し、期間中全ての行事をスクリーンに映します。
- ③収容人員最大10,000人の設備だが、各日約5,000人の入場を予想していた。
- ④音楽や演劇を行うステージプログラムや、お試しスポーツセッションなどの芸術・文化活動といった各種エンターテイメントが予定されている。

- ⑤食事やスナックを提供するライセンス・バー（英国ではバーのオープンにライセンスが必要）や露店も出店されている。
- ⑥約40人のボランティアが10日間ファンゾーンで様々な分野で奉仕する。



ファンゾーンの入口ゲート



ファンゾーン内のステージ

（7）交通計画

- ①誰もが移動しやすいよう配慮

※ファンの65%は車で来場するため、パークアンドライドを実施する。イーストミッドランズ鉄道の協力により鉄道の増便を行うとともに、試合開催日はスタジアムとファンゾーン間にシャトルバスを運行する。市ウェイブサイト www.choosehowyoumove.co.uk やソーシャルメディアで既存のネットワーク利用者には情報提供を行う。

- ②課題は、日曜日開催の試合（英国の鉄道は日曜日が大幅に減便されている）、駐車場は全ての試合

（8）レガシー（遺産）

2013年8月以来、レガシープランは、以下の分野で永続的な影響を与えることに焦点を置いている。

- ①小学生児童の参画
- ②若い指導者や親善大使の訓練と養成
- ③クラブの養成と支援
- ④非伝統的地域団体への試合以外での認知度向上

2 スタジアム周辺・ファンゾーン等の調査

キング・パワー・スタジアム（RWC大会時名称：レスター・シティ・スタジアム）から少し離れた位置にあるファンゾーンにパブリックビューイング会場が設置されている。

もともと、ヴィクトリア・パーク（Victoria Park）と呼ばれている公園の一部を活用して、会場整備がされている。

また、スタジアムからファンゾーンにかけて、様々な場所にバナーと呼ばれる三角のPR旗が飾られ、大いに大会を盛り上げる。



市内のいたるところに飾られているバナーと呼ばれる三角のPR旗



市内のいたるところに飾られているバナーと呼ばれる三角のPR旗



ファンゾーンの案内図



広々としたファンゾーン



広々としたファンゾーン



ファンゾーンが設置されている公園

3 合宿地：レスター・グラマースクール調査

(1) レスター・グラマースクール

グラマースクールは、英国などの英語を話す国の教育史における数個の異なった学校の一つであり、現在、中等教育を形成し、文法学校ともいわれている。

中世のグラマースクールの当初の目的は、ラテン語を教えることにあったが、カリキュラムは広がり、初めは古代ギリシャ語や時にヘブライ語、後には英語などの欧州の言語が含まれ、同様に自然科学や数学、歴史、地理学などの科目が含まれることになった。現在、スコットランドを除きイギリス全土で中等教育を施すために再編成された。(ウィキペディア参考)

この学校に通う生徒たちは、ほとんど親が車で送迎をしているようで、それも父兄が運転するドイツ製の高級車ばかりが、次から次へと管理地内に入ってきた。学校入口に歓迎看板はあるものの、私たちは、合宿地として使用されていたグラウンド等がある奥に入ることはできず、外から眺めるだけに終始した。

また、この合宿地選定については、市として誘致活動をしたものではなく、指定されたとのことであった。

「チームの合宿地であることを誇りに思う」と言う意味であろうか、「PROUD TO BE TEAM BASE」という横断幕が、学校進入路の入口に大きく掲げられていた。



合宿地の横断幕



合宿地のウェルカムボード

4 ラグビー校周辺調査

自治体：ラグビー

イングランドで有名なパブリックスクールであるラグビー校がある自治体、ラグビー(Rugby)は、イングランド・ウォリックシャーのタウンである。

行政上はバラ・オブ・ラグビーに属しており、周辺地域を含めたバラ・オブ・ラグビーの人口は、2005年時点で約91,600人。コヴェントリーの東21km、ウォリックシャーの東端に位置し、ノーサンプトンシャー、レスター・シャーとの境界からほど近い。エイヴォン川沿いに位置していて、ウォリックシャーでは2番目に大きなタウンである。

ラグビーの発祥には、諸説あるが、タウン内にあるパブリックスクールのラグビー校において、ウィリアム・ウェップ・エリスによって、スポーツのラグビーが発明されたと信じられている。

「1823年、ラグビー校でのフットボールの試合中、ウィリアム・ウェップ・エリスがボールを抱えたまま相手のゴールを目指して走り出した」ことがラグビーの発祥だとされている。(ウィキペディア参考)

ラグビー校

イングランドで最も有名で最も古いパブリックスクール（英国の私立学校の中でもトップの10%を構成するエリート校）の一つである。

生徒は11歳から18歳、男女共学で定員は950名。そのうち800名が寮生活をしており、年間の学費は寄宿生で32,025ポンド、通学生で20,094ポンドほどと学費が非常に高いとのことである。

入学基準が厳格なため、奨学金で入学を許された少数の学生以外は、裕福な階層の子ども達が、寮での集団生活を送り、英国の頂点にあるケンブリッジ大学、オックスフォード大学などへの進学を前提としている。(ウィキペディア参考)

私たちは、正門で受付していた方の許可を得て、広大な敷地に入った瞬間、感嘆の声が出るほど、素晴らしいラグビーランドが目に入り私立の名門、エリート校という雰囲気であった。

校舎内に入ることはなかったが、生徒が使う売店に入ることもでき、生徒たちが日常的に購入するものも見ることができ、在学中の生徒たちとそれ違ったが、皆自信に満ち溢れた雰囲気を醸し出していた。



ラグビー校の正門



芝生がしっかり管理されたグラウンド



ラグビー校のプレート



グラントに設置されたメッセージボード



グラントに設置されたメッセージボード



校内の売店

ラグビー校周辺

ラグビー校の周辺は、歴史を感じるたたずまいの美しい街であった。「ラグビーワールドカップ2015」の試合会場でないものの、ラグビーの発祥地と言われるだけあって、「ラグビーワールドカップ2015」を全面的に応援していると言う雰囲気を感じた。

ウィリアム・ウェップ・エリス像の周りには、大会参加国の国旗や過去の大会のパネル展示も行われていた。

また、隣接する商店街にも横断幕やバナーが市民や観光客、各国からの応援者を出迎えていた。



ウィリアム・ウェップ・エリス像



ラグビー校周辺の景観

2 ジャパンパビリオン

公益財団法人日本ラグビーフットボール協会と、公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会は、次期開催国である日本を紹介するため、「ラグビーワールドカップ2015」期間中の10月31日まで、ロンドン中心地であるウェストミンスターにあるクイーンエリザベス二世カンファレンスセンターに開設していた。



ウェストミンスター寺院とパビリオン



パビリオン外観

「ラグビーワールドカップ2019」への関心を高めてもらえるようパビリオンでは、日本の省庁や大会会場となる全国12開催都市の19自治体の協力を得て、各開催都市、日本におけるラグビーやスポーツ、そして文化や歴史を紹介していた。

日本文化の紹介では、来場者に着物の着付けや書道、折り紙などの体験コーナーや開催都市を紹介したパネルが展示されており、来場者へ直接アピールし「ラグビーワールドカップ2019」の観戦、来日を呼びかけていた。



着物の試着



日本の紹介ポスター

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの情報などについても併せて展示し、1日に2,000人、期間中に40,000人の来場を見込み、イギリス人はもちろん、世界の人々に、日本、愛知県、豊田市を知ってもらい、多くの人に豊田市に来てもらいたいと感じた。



パビリオン内



パビリオン内

3 トゥイッケナム

1 トゥイッケナム・スタジアム

ラグビーの聖地と言われており、リッチモンドの西、トゥイッケナムに位置し、1909年に作られたラグビー専用のスタジアムで、82,000人の収容人数を誇る。ラグビーイングランド代表のホームスタジアムであり、イングランドラグビー協会が所有している。



トゥイッケナム・スタジアム外観



駅構内でのボランティアによる案内

2 アクセス

オーストラリア対ウェールズ戦のトゥイッケナム・スタジアム周辺の様子を調査するため、ホテルから地下鉄に乗ってウォータールー駅に向かった。

ウォータールー駅に到着すると、すでにオーストラリア代表の黄色のユニホームを着た人や、ウェールズ代表の赤のユニホームを着た人を多く居る中、ブリティッシュレイルに乗り換えてトゥイッケナム駅に向った。

トゥイッケナム駅に到着すると、プラットホームはかなり混雑しており、ボランティアが大きな声で誘導をしていた。



トゥイッケナム駅構内



スタジアムへ向かう人波

3 スタジアム周辺

トゥイッケナム駅からスタジアムまでは住宅街を移動したが、車両進入の通行制限がされ、観客の人たちが車道を歩いており、ここでも多くのボランティアが、時にはユーモアを交えながら大きな声で誘導をしていた。

住宅街の庭先には多くの露店が設営され、食べ物や応援グッズを販売していた。また、数か所に簡易トイレも設置されており、多くの人々が並んでいた。

駅から徒歩15分程度でスタジアムに到着し、収容人数82,000人を誇るだけあって観客がどんどん吸い込まれていた。



スタジアム周辺の様子



ファンゾーンからスタジアムへ向かう人達

4 ファンゾーン

ファンゾーンに移動するため、来た道を駅に向かっていき、その途中には、ロンドンで有名な赤の二階建てバスが数台止まっており、ファンゾーンとスタジアムを結ぶシャトルバスであった。

ファンゾーンはイングランド各地で15箇所あり、パブリックビューイング機能に加え、その地域の特徴を生かしたファンゾーンが準備されているとのことであった。



ファンゾーンに設置されていたテント



テントの内部

トゥイッケナムのファンゾーンは、屋外に2基の大型スクリーンや、子どもたちが飽きないように、メリーゴーランドや観覧車などの移動遊園地もあり、フードコートでは、ビール、ワインやウイスキーなどのお酒から、ハンバーガーやフィッシュアンドチップスなども売られていた。

会場内には、ひときわ大きなテントがあり、テント内にも大きなスクリーンが設置され、飲食物の販売もあった。スクリーンにはトゥイッケナム・スタジアムで行われているオーストラリア対ウェールズ戦がライブで中継されており、試合の状況により大きなどよめきや歓声が上がっていた。

ファンゾーンは、試合前までファンゾーンで楽しみ、シャトルバスでスタジアムに向かう人や、チケットが取れなかつた人が十分楽しむことができるエリアであった。



ファンゾーンに設置されていた観覧車



ファンゾーンに設置されていたスクリーン

4 熊谷市議会との意見交換

「ラグビーワールドカップ2019」の会場の一つに選定された、熊谷市議会議員が同じホテルに宿泊しており、意見交換を行うことができた。

熊谷市議会の富岡議長からは「思いかけず異国の方にお会いして、豊田市議会の皆様と交流が持てますことを光栄に思っております。熊谷市議会においても、「ラグビーワールドカップ2019まちづくり特別委員会」を設置しました。これを機に両市が交流をより深めて、「ラグビーワールドカップ2019」の成功に向けて、ともに進めていきたい。」と挨拶された。

その後、都築団長から「熊谷市と交流を深め、「ラグビーワールドカップ2019」の成功に向けてスクラムを組んで取り組みたい。」と挨拶をし、意見交換に入った。



熊谷市議会 富岡議長挨拶



豊田市議会 都築団長挨拶

意見交換では、豊田市側からは、レスター市の視察、トゥイッケナム・スタジアムとファンゾーン、そしてジャパンパビリオンについての印象を報告した。

熊谷市側からは、ミルトンキンーズ市の視察、トゥイッケナム・スタジアムとファンゾーン、そしてオリンピックパークの視察について報告があった。

その後の意見交換では、イングランド大会での日本代表の活躍で盛り上がっているラグビー人気を日本国内でも持続させ、「ラグビーワールドカップ2019」を迎えるために、熊谷市、豊田市の両市だけでなく、国内の開催自治体がしっかりとスクラムを組んで、大会成功に向けてがんばることを確認して、意見交換を終了した。



意見交換の様子



熊谷市議会との合同写真

5 グロスター

1 グロスター都市概要

日本対アメリカ戦の試合会場「キングスホールム・スタジアム」があるグロスター市は、グロスター・シャー州の都で、ロンドンから電車で約2時間のところに位置する。

街のシンボルは1300年の歴史を持つ「グロスター大聖堂」で、最長約130m、中央塔の高さは69mある。前身は修道院で、1089年に工事が開始され、1499年まで400年以上をかけて建設された。莊厳な外観や繊細な彫刻が施された回廊が美しく、国内で最も美しい建築物の一つとされている。映画「ハリー・ポッター」のホグワーツ魔法学校のロケ地としても有名である。



グロスター大聖堂



グロスターの街飾り

2 試合会場

「キングスホールム・スタジアム」は、1891年に開場され、収容人数は約16,500人のラグビー専用スタジアムであり、立ち見席が多いのが特徴的である。



スタジアムの外観



対戦カードの案内



スタンドの様子



19 ゴールを狙う五郎丸選手

3 交通アクセス

グロスター駅からは、徒歩で約10分のところにあり、試合当日のスタジアム周辺は車両進入の交通規制がされており、歩車道はたくさんの人で溢れていた。また、現地の方による和太鼓による路上パフォーマンスの歓迎も印象的であった。



グロスター駅周辺



和太鼓の路上パホーマンス

4 ファンゾーン

「グロスター・ファンゾーン」は、スタジアムから徒歩で約10分の商店街と再開発地との間にあり、大型スクリーンが1台設置されており、大勢の観客で満員状態であった。

前日に視察を行った「トゥイッケナム・スタジアム」に併設されていた「リッチモンド・ファンゾーン」ほどの敷地の広さや設備的にもけっして大きくなかったが、漁港にほど近い場所に設置されており周辺にはレンガ造りの建物がありロケーションとしては、抜群であった。

試合会場周辺では、多くのボランティアが交通誘導、会場への案内などで活躍していた。



ファンゾーンの入口案内



ファンゾーンの様子



ファンゾーンの様子



ファンゾーン周辺の様子

6 経済効果セミナー『アーンスト・アンド・ヤング社』

1 國際的に高まり続けるラグビーワールドカップ人気

(1) 参加国・地域の拡大

1987年 16カ国・地域 ⇒ 2015年度 95カ国・地域

(2) 世界的メジャー競技として確立 チケット販売枚数

1987年 60万枚 ⇒ 2007年度 220万枚

(3) 大会観客数の増加

1987年 2億人 ⇒ 2007年度 40億人



スタッフによるレクチャー

2 メガスポーツイベントにおける開催地への経済的利益

(1) 開催地が得るメリットの例

観光地としての「知名度アップ」「ビジネス関係の構築」「大会開催による雇用の創出」「スポーツ人口の増加」「インフラ投資」「スタジアムの整備」「観光客による売り上げ」「地元住民の一体感の高まり」など、短期的には大会開催による消費の活性化、長期的にはラグビー人口が増加し観光客やビジネス投資の誘致施策につながる。

3 「ラグビーワールドカップ2015」の経済効果

(1) 大会開催による経済効果は、「直接効果」「間接効果」「波及効果」に分類できサプライチェーン全体及び地元経済に対して大会がどのように経済活動及び雇用を創出し、開催国全体及び開催各都市に対する経済効果を明らかにしていく。



ラグビーワールドカップ2015による総生産

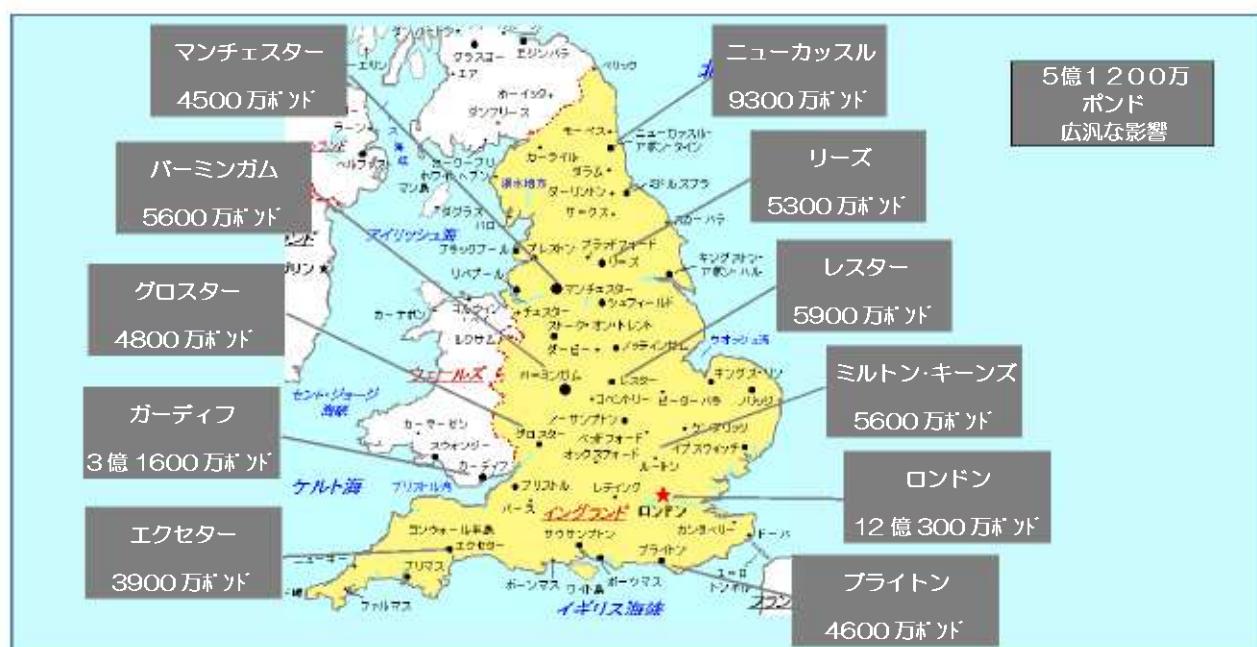
(2) 「ラグビーワールドカップ2015」の観光客数は46万6千人、経済効果は4,070億円と予想されている。

(3) 「ラグビーワールドカップ2015」は、地域を越えた雇用創出を後押し

大会の開催により、セクターを問わず幅広い種類の雇用機会の創出が予想できる。重要な点として、さまざまな種類・階層の人々に対して雇用が提供されることが挙げられる。雇用形態もフレキシブルで、パートタイム・契約社員労働時間の延長などの形態が含まれる。



(4) 「ラグビーワールドカップ2015」の経済効果はイングランド全体に拡がる



国中に拡がる経済効果

(5) 大会はチケット収入により開催され、より大きな経済効果を生む

チケット販売方式には、一般的な方法に加えて、ホスピタリティ・パッケージや旅行パッケージとして売る方法がある。チケット販売総売上額は、推定2億5,000万ポンドと予想されている。開催国の追加の生産として加えられるのは諸外国からの観客の消費である。



駅からスタジアムに向かうオーストラリアサポーター

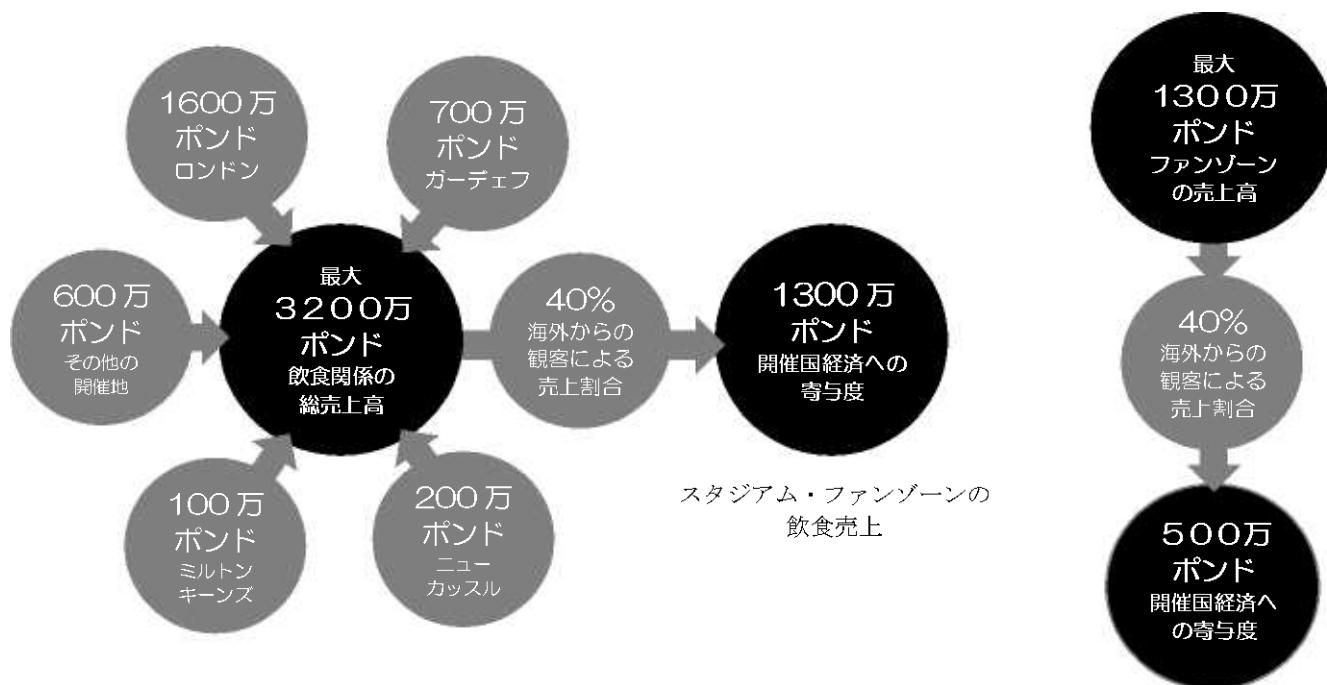


スタジアム入場ゲート

(6) 各地のスタジアムやファンゾーンで売上が期待

開催都市にとって、スタジアムでの飲食収入は相当な規模になる。飲食販売は最大で3,200万ポンドの売上が期待され、そのうち1,300万ポンドは海外からの観客によるものと予想。一般にラグビーファンはスタジアムでの飲食消費額が多いことで知られている。

大会を盛り上げ、開催都市の住民全体にこのイベントを体験してもらうために、イングランド・ガーディフを通じて15箇所のファンゾーンを設置した。設置場所には各都市の代表的な観光名所を選び、さまざまなエンターテインメント及びラグビーの関連活動を提供している。ファンゾーンは各都市の特性を生かしラグビーファンと一般市民が共に集える場所として、大人だけでなく家族全員で楽しめる趣向にしている。



4 「ラグビーワールドカップ2019」の経済効果予想

日本大会の観光客は約40万人と予想、経済波及効果は4,200億円と試算するが、「ラグビーワールドカップ2015」での日本の活躍で、日本のラグビーハンターが向上している。今後の盛り上がり次第で、経済波及効果の試算は変わって行く。



E・Y社スタッフと視察団



日本代表の活躍で2019年への期待

7 エミレーツ・スタジアム

イングランドの首都ロンドン北部に拠点を置く、エミレーツ・スタジアムは世界でも有数の最新設備を完備する。プロサッカークラブ「アーセナル」のホームスタジアム。2006年7月に開場、収容能力60,432人、最寄り駅「Arsenal駅」「Holloway Road駅」



見学ツアーの案内板



スタジアムの外観



日本語のオーディオガイド

日本語含む多言語でオーディオガイドツアーを行っている。アーセナルのコーチ陣による本格的な解説と共に、ホームや対戦チームの控え室、ディレクターズ・ボックス、ピッチ・トンネル、プレス・ルームなど、普段見ることのできないスタジアムの裏側も見ることができる。試合のない日でもガイドツアーを目当てに、多くの人が訪れている。



展示コーナー



見学ツアーの入口



プレスルーム



ロッカールーム

エミレーツ・スタジアム内にあるショップでは、ホームチーム「アーセナル」の選手やチームのグッズが並び、人気となっている。ガイドツアーと合わせ集客効果が高い。



広々としたスタンド



休憩コーナー



グッズショップ



グッズショップ



スタジアムの外観



展示コーナー



視察団集合写真



人工的に照明を当てての芝生の養生

おわりに

1987年に始まった「ラグビーワールドカップ」は、4年に一度開催されるラグビーの祭典であり、今回、視察をした「ラグビーワールドカップ2015」は、始まってから8回目を数えます。

参加国及び地域は、第1回大会の16か国から95か国に増加し、第1回大会以来、決勝トーナメントへの参加国は25か国を数え、開催を重ねるごとに、その規模は拡大し、世界中のラグビーファンを魅了しています。

「ラグビーワールドカップ」の認知度が世界的に高まるにつれ、世界各国におけるテレビ観戦者数も大幅に増加し、1987年の第1回の開会式が放映されたのは17の国と地域で視聴者はおよそ2億人にすぎませんでしたが、2011年の第7回の開会式では、2,017の国と地域でおよそ40億人に向けて放映されました。

しかしながら、第1回大会の開催当初の日本では「ラグビーワールドカップ」の存在があまり知られていませんでしたが、今回の「ラグビーワールドカップ2015」での日本代表による強豪国南アフリカ戦での劇的な勝利や、活躍がマスコミで大きく取り上げられ、国内におけるラグビーライブ人気が大きな盛り上がりを見せました。

今回の視察では、グロスターにあります日本対アメリカ戦の試合会場「キングスホールム・スタジアム」に出向き、また会場近くのファンゾーンにも足を運びました。試合会場の周辺でも住宅の窓や外壁に日の丸の国旗が飾られていたり、地元の方々が顔に日の丸のペイントをし、ファンゾーンで試合観戦をしたりと、グロスターにおいても日本人気は熱烈なものがありました。

実際に現地に行って、自分の目で見、肌で感じることの重要性を改めて感じた視察もありました。

議会としても「豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会」を平成28年度も継続して設置していく予定であります。

今後は、多くの課題を克服しなければなりませんが、今回の視察の経験を生かし2019年までに本市におけるラグビーライブ人気が今以上になり、本市に訪れていただく方々に満足していただけるよう調査研究を進めていく必要があると感じました。

豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会 海外視察団一同

